



技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 秋季号<第141号> (令和6年10月15日発行)



環境ミュージアム

2001年に開催された北九州市博覧祭のパビリオンとして誕生以来、環境学習、環境情報、環境活動の3つの機能を備えた「環境学習施設」として市内外から多くの方が訪れている「環境ミュージアム」。公害克服の歴史や世界の環境問題、身の回りのエコ活動や市民・企業の環境への取り組みなど、「見て・触れて・楽しみながら学べる」施設です。3キロワットの小型風力発電、6キロワットの太陽光発電(北九州エコハウス含む)、雨水利用システムなど、様々な環境配慮設備を備え、施設自体が学習教材となっています。北九州地区支部では館内の多目的ホール会場で月例のCPDを実施しています。

みやざき てるみ
宮崎 照美 (環境、副代表、広報、博士(工学)・北九州)

目次

巻頭言	1	中央・統括本部情勢	13
私の提言	2	委員会・部会報告	14
声の広場	3	支部だより	19
若手技術士の声	5	CPD報告	21
修習技術者の声	6	技術士全国大会案内チラシ	23
地域の話	7	青年技術士交流委員会勧誘記事	25
土木遺産シリーズ (37)	9	会員ニュース	26
ミニ特集	10	協賛団体会員	27

世界から選ばれる九州・福岡県の実現に向けて

福岡県県土整備部長 まわたり **馬渡** しんご **真吾**
(建設、総合技術監理・福岡)



我が国は、「失われた30年」と呼ばれた時代を経て、物価や賃金水準の上昇が段階的に実現してきており、フレからの脱却に向けた大きなチャンスを迎えている。一方で、ウクライナなど世界各地での紛争の長期化や米中の深刻な経済対立を踏まえると、地政学的に米中の中に位置する我が国は、政治的・経済的な観点から、長期的視点に立った戦略的な対応が求められている。

中でも日本の最西端に位置する九州は、経済安全保障の観点から、台湾のTSMC（台湾積体回路製造）の熊本進出を一つの契機として、半導体産業の一大集積地として再び脚光を浴びている。日経新聞が、本年7月24日の朝刊で、“2021年度以降の九州における半導体関連投資は100件を超え、投資規模は非公表分もあわせて5兆円規模に達した模様”と報じるなど、その投資先は熊本に限らず九州各県に及んでいる。福岡県では、「新生・シリコンアイランド九州」の実現に向け、半導体産業の更なる集積のため、半導体人材の確保や半導体技術の高度化に取り組んでいるが、このようなソフト対策に加え、工場や空港・港湾といった関連施設を円滑かつ安定して連絡するという意味でも、強靱な交通インフラの整備・強化が不可欠である。また、半導体に限らず、一か国・一地域への過度の依存を避けた商品の供給網の構築は、政治・経済の世界的な潮流を受けて長期間に及ぶとも考えられ、これを支えるインフラの機能強化は急務であると考えられる。

交通インフラの強化として取り組んでいる大きなプロジェクトの一つが、九州と本州を結ぶ3本目の道路である「下関北九州道路」である。本年5月に、国や山口県、北九州市、下関市とともに、海峡部の構造形式を橋梁とする延長約8 kmのルート素案を固め、7月より、都市計画権者である山口県、北九州市が環境影響評価及び都市計画の手続きに着手した。本道路の整備により、下関・北九州地域の一体的な発展のみならず、本州と九州間のサプライチェーンの強靱化による経済面の効果は、九州一円に波及すると考えられ、確実な手続きの進展と早期事業化を求めている。また、県内5番目のスマートICである、小郡鳥栖南スマートICが本年6月に供用を開始し、多くの物流車両が利用している。同地域においては、今後の周辺の開発計画の促進が期待されており、他地域においても、スマートICやアクセス道路の戦略的な整備・検討を進めていきたい。

また、福岡県が管理する苅田港においては、工業用地の造成や大型船舶の寄港が可能な岸壁の整備を進めている。福岡県を中心とする北部九州は、年間の自動車生産能力が約154万台と、イギリスの生産能力を上回る一大生産拠点となっている。苅田港は、このような自動車産業をはじめ、地域経済を支える重要な交通インフラの一つである。東九州自動車道へのアクセスもよく、24時間の運用が可能な北九州空港に近接するという地理的なメリットも活かしつつ、更なる企業立地の促進やカーボンニュートラルポートの形成などに向けて、現在、長期構想策定のための議論を進めているところであり、苅田港の機能強化に向けた将来展望を明らかにしていきたい。

これまで述べてきたような経済活動を継続的・安定的に可能とするためには、自然災害への備えが不可欠である。しかしながら、東シナ海に面した九州は、地球温暖化による海水面の上昇により、集中豪雨や土砂災害に見舞われるリスクが高まっている。福岡県においては、平成29年の九州北部豪雨以降、県南地域を中心に7年連続で家屋や工場、農地の浸水被害が広範囲に発生するとともに、昨年は久留米市において死傷者を伴う大規模な土石流災害が発生した。このため、従来の河川整備や排水設備の増強に加え、道路や公園の地下空間も活用した調整池や放水路の整備を、国や自治体と連携して進めるとともに、特定都市河川指定による開発抑制策や自治体と連携した避難の呼びかけなど、ハード・ソフト両面からの流域治水を加速させていきたい。

結びに、九州のリーダー県としての気概を持ちながら、円滑で安定した交通インフラの提供や自然災害への備えを通じ、「世界から選ばれる九州・福岡県」の実現に向けて、しっかりと役割を果たしていきたい。

(E-mail : mawatari-s6617@pref.fukuoka.lg.jp)

技術士制度の在り方への提案

長崎県支部 副支部長 かわむら あきのぶ
川村 昭宣
(建設、総合技術監理・長崎)



1. はじめに

日本技術士会は、1951年に創立され、長崎県支部も2014年創立で今年10周年となりますが、その前身ともいべき長崎県技術士会は、1975年創立で、来年50周年となります。今後技術士制度が多くの方に認知され、更に発展していく事を祈念し、日頃から気になっている技術士制度の在り方について、提案させていただきます。

2. 技術士1次試験の在り方

現在JABEE（日本技術者教育認定機構）認定の大学や高専の卒業生は、技術士1次試験免除となっていますが、見直しが必要と考えます。

JABEEは、各大学の組織や運営状態・講義内容等が適切である事を認めているのであって、卒業生個々の技術力を認定してはなりません。東大や京大等の旧帝大はJABEEの認定を受けていませんが、その技術力がJABEE認定大学の卒業生より劣っているとは考えられません。

技術士は個人の資格で、各個人の技術力を認定するものであり、一部の大学卒業生のみが1次試験免除というシステムは不公平であり、2次試験を受験する人は全員1次試験を受験するべきと考えます。

どうしてもJABEE認定大学とその他の大学の卒業生に差をつける必要があるのなら、2次試験受験時の経験年数に差を付ける事で良いと思います。

3. 更新制度の在り方

技術士資格は一度合格したら、ずっと永続して継続出来る資格ですが、継続教育の観点から更新制とする事が議論されています。

資格には2種類あると個人的に感じています。ある時点でのレベルを示す資格のいわば「時点資格」という意味合いの資格と、資格を用いて仕事をする資格でいわば「業務資格」的性格の資格です。

「時点資格」の代表は大学卒業生の「学士」や大学院卒業生の「修士」や「博士」ですが、現在博士以外はほとんど使われることは少ない様です。

技術士という資格は、この両方の意味合いを兼ねた資格と考えます。機械部門や電気部門等は「時点資格」的性格が強く、建設部門関連の技術士は「業

務資格」的性格が強いと考えます。「時点資格」と認識している技術士にとっては、博士の称号と同じ様に、一種の名誉称号として、更新の必要性を感じておらず、更新制には反対の方も多いと思われる。

「時点資格」としての技術士は更新不要として、業務に必要な技術士のみ更新制を適用することとして、現在推進されているCPD登録を活用し、更新した技術士は「認定技術者」「継続技術者」といった名称の技術士として明確化し、業務に関与する制度とすることを提案します。

4. 総合監理技術部門の在り方

総合監理技術部門（総監）は2001年に新設されて20年以上となりますが、有効に機能していないと思われ、今までに種々議論されています。

総監は21番目の部門となっていますが、独立ではなく、選択科目として総監以外の20技術部門のいずれかに合格する事が必要です。受験する方のほとんどは選択科目としての20部門のいずれかを合格後に総監を受験しています。総監での5つの管理の考え方は各部門に共通したものであり、新規の業務開拓や新製品開発、トラブル解決等に非常に役立つ考え方です。

総監部門に合格した技術士は、一般技術士よりも1ランク上の、いわば上位の資格と位置づけられても良いと考えます。

今後「総監技術士」という呼称を新設し、一般技術士とは異なる事を明確に示す様にしては、如何でしょうか？

現在は建設部門と総監部門に合格した技術士は、「建設・総監」と表示していますが、「総監技術士」と呼称し、専門部門として「建設」と表示します。

5. 技術試験と技術士呼称の在り方

現在技術試験は2段階ですが、総監試験を独立させて追加し、技術士試験を1次試験・2次試験・総監試験の3段階とし、各々の合格者を「技術士補」、「技術士」、「総監技術士」と称する事を提案します。

所属：有限会社吉川土木コンサルタント
(E-mail: ak-kwmmr@mx.cncm.ne.jp)

I

SP(スペシャル)防災士 育成プロジェクトについて

たかやま ゆうじろう
高山 祐二郎
(建設・熊本)



私は、熊本地震後、防災士の資格を取得し、「合志市防災士連絡協議会」(高山会長)に所属しています。本協議会は、防災士の資格を得て合志市に在住し、又は勤務する者で構成されており、防災士相互の連携を図るとともに、防災に必要な知識、技能等を高め、地区の自主防災組織をはじめ、合志市全体の防災力の向上に寄与することを目的としています。平成30年8月6日に設立されており、現在会員数は185名であります。主な活動として、①年1回の総会開催、②市主催の総合防災訓練等への参加、③各支部ごとの訓練・会議等の実施、④防災に関する研修などを行っています。

防災士連絡協議会の現状・課題から今後の方向性について記述します。

1. 現状(問題点)

- (1)協議会の会員から、防災士の資格を取得しても活躍する場がないとか、スキルアップをどう図ったらいいかわからないという意見がありました。
⇒知識・技能の低下が懸念、また個人が保有する専門的な知識・技能の活用が不十分。
- (2)協議会発足時は、啓発や訓練など5つの部会により、機能別に訓練等を実施する計画としていましたが、組織としての訓練統制やまとまった活動が困難になってきました。そこで、地域に根差した活動ができよう組織の体制を見直し、地域ごとに4つの支部を設立いたしました。支部ごとのレベルアップのための訓練体制を構築する必要がありました。
⇒訓練等実施にあたっての人材不足、市の特性に応じた訓練プログラムが未整備。

2. 課題

- (1)組織として防災士をいかに育成していくか(知識・技能・意識の向上)
- (2)育成するための体制をどのように整えるか
- (3)育成した防災士をいかに運用していくか(市及び地区との連携)

3. 方向性

- (1)基本となる訓練プログラムを作成し、支部ごとに訓練指導部を編成し、訓練体制を整え、訓練・研修等を実施します。新たな取り組みとしては、昨

年度から地域防災力の向上を狙いとしたSP(スペシャル)防災士育成プロジェクトを開始し、今年4月から基幹要員への訓練等を実施中であります。

4. SP防災士の目的

- ①防災組織(防災士連絡協議会)の充実⇒各支部ごとの防災力強化
- ②防災士スキルアップ⇒組織全体の底上げ
- ③災害時における市及び地域との連携した災害対応活動⇒避難所運営に関する助言や被害状況の情報収集・報告など

5. SP防災士の達成すべき目標

SP防災士は、年齢や性別、専門的知識・技能等を考慮し、個々に達成すべき目標を確立すること。

(1)共通事項(必須)

- ①防災士として基本的な知識や技能を保持している。
- ②合志市の災害対策本部の機能及び災害対応要領について理解しており、密接な連携ができる。
- ③地区の連絡員として活動できる。

(2)平常時

- ①地域や学校において、防災に関する講義ができる。
- ②地域や学校において、防災訓練に関する指導ができる。

(3)災害時

- ①情報収集・分析により被害の軽減を図ることができる。
- ②地区の運営する災害対応について、アドバイスできる。
- ③負傷者等への処置がおおむね実施できる。

(4)災害発生後

- ①ボランティア活動に貢献できる。
- ②資材の取り扱い等おおむね指導できる。

6. SP(スペシャル)防災士の訓練内容

- ①防災基礎、②防災訓練基礎、③防災体制、④災害対応(基礎)、⑤災害対応(図上演習)、⑥災害対応(実技)、⑦総合訓練などとなっています。

7. 結びに

本協議会では、4月からSP(スペシャル)防災士育成プロジェクトをスタートさせ、自主防災組織の中心的な役割を担い、災害に対する知識や避難方法、応急手当等の実技を指導できる防災士を確保することにしています。また、近年激甚化している豪雨災害や近い将来発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等に備えた地域コミュニティにおける防災力(自助・共助)強化に取り組んでいきます。

所属：株式会社ジョーナンテクニカル
(E-mail: takayama-y@ab.auone-net.jp)

II

技術士の散歩道： 日本刀を科学的に鑑賞

ぜ ぜ まさふみ
瀬々 昌文

(金属、博士(工学)・北九州)



1. はじめに

「たたら製鉄によるものづくり教育」に20年ほど関わり、たたら製鉄の最終製品の一つである日本刀に興味を惹かれた刀剣老子です。世の中ではゲーム・アニメ「刀剣乱舞」の影響で日本刀ブームが起こり、博物館や美術館等での名刀の展示会では列ができるほどの賑わいです。以下に技術的・科学的側面から見た日本刀の魅力について、私の推しの名刀の歴史的逸話も含めて紹介させていただきます。

2. 日本刀の技術的・科学的な魅力

日本刀を科学的に説明した成書も多く詳細はそちらを参照していただくとして、ここでは技術士・金属的な視点での特徴について述べたいと思います。

①化学成分：日本刀の素材としては砂鉄を原料とする「たたら製鉄」により製造される玉鋼が必須であり、鉄鉱石を原料とする高炉法により製造された鋼では造形はできても強靱で切れ味のいい特性を再現することはできない。玉鋼は部位にもよるが1.2%Cの高純度高炭素鋼と考えてよいが、実験室電気炉で同成分の鋼を溶製しても再現はできない。理由は明確ではないが、Cの溶解・固溶状況が異なっているという説もあるが、謎が残るところで。

②折返し鍛錬による脱炭：玉鋼は折返し鍛錬という工程で12~15回程度打ち延ばされることで、0.7~0.8% C程度まで脱炭され、PやS等の脆化元素も除去される。いわゆる、メカニカル・アロイングである。15回折返しを行うと、結果的に $2^{15}=32768$ 層の積層鋼材となる。

③造り込み：鍛錬された低Cの心金を高Cの皮金で包み圧接する工程です。鋼は高Cでは硬く強度が高いが脆く、低Cは柔らかく強度が低い粘り強いという性質があり、合わせることで外側は硬く切れやすく全体として強靱な造りとなる。いわゆるクラッド鋼(複層鋼材)の先進技術が使われている。

④焼入れ：焼入れは日本刀に命を吹き込む工程とも言われ、刃を硬くして切れ味を鋭くすると同時に、日本刀の特徴である反りと刃文も同時に生じる。背側に焼入土を塗り水冷すると刃側は焼入れ硬化が進むが背側は遅れ、両者の収縮膨張差により反りが生

じ、刃側には圧縮、背側には引張の残留応力が生じる。日本刀で人・物を切る際には通常刃側には引張曲げ応力が生じるが、刃側の圧縮残留応力はこれを相殺し折れにくくする。焼入れで生成する刃文は2つとして同じものはない指紋のようなもので、反りと併せて流派・刀匠の個性が現れるところである。

3. 裏話に魅了される日本刀

1) 童子切安綱(国宝：東京国立博物館所蔵)

国宝第一号の日本刀で、天下五剣の筆頭に挙げられることもある。童子切の名は、源頼光が丹波大江山の酒呑童子という鬼の首を切ったという伝説由来する。その後、足利将軍家→信長→秀吉→家康へ渡り、最終的には東京国立博物館の所蔵となっている。2024年3月には国宝級の他の名刀とともに特別展示され、海外からの観光客も含め人気が高かった。反りと刃文には魅了される。



写真 童子切安綱(2024年3月19日撮影)

2) 日光一文字(国宝：福岡市博物館所蔵)

秀吉の小田原城攻めの際に降伏仲介の礼として北条家から黒田如水に贈られた名刀である。昭和50年代に他の黒田家の家宝とともに福岡市に寄贈され、福岡市博物館で年1回黒田家家宝の展示エリアで公開されている。華やかな刃文が特徴で、刃文の見方のガイドまで展示されている。福岡市博物館は、圧切(へしきり)長谷部や安宅切といった名刀も年1回特別展示される。その横には黒田節に唄われている天下三名槍日本号が常設展示され、長さ3m超の槍は圧巻で見ものである。

3) 山鳥毛(国宝：備前長船刀剣博物館所蔵)

備前長船(瀬戸内市)の一文字派の作で、上杉謙信・景勝の愛刀として代々上杉家で所蔵された名刀です。その後一般の収集家の手に渡り、紆余曲折の末に瀬戸内市が5億円で買い戻したことで有名となった。8/24~9/23には特別展示(予約制)が予定され、お目にかかれるのを楽しみにしている。山鳥の羽毛を連想させる華やかな刃文が特徴です。

所属：ZEZE技術士事務所
(E-mail: zeze@jcom.home.ne.jp)

若手技術士の声

大学教員が技術士を目指したら？

まつう
松鶴 さとみ
(衛生工学・鹿児島)



1. はじめに

この度は、「若手技術士の声」への寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。一般的に『若手』とは言えない47歳の私が執筆しても良いのか迷いましたが、鹿児島県支部の先輩方から「若手でO.K.」ということで、引き受けることにしました。

私は、現在、大学教員として、主に建築環境工学や建築設備に関する教育・研究活動を行っています。今回は、技術士取得までの道のりや、JABEE認定プログラム所属の教員として思うこと等を書いていきたいと思います。

2. 技術士を目指した理由

技術士を知ったのは大学2年生の頃でしたが、実際に目指すきっかけは、大学院博士前期課程1年の時に、学内であった「技術士第一次試験説明会・相談会」に参加したことでした。「就職に有利になるから」という不純な動機で第一次試験を受験しましたが、衛生工学部門の場合、専門科目は廃棄物処理・水質管理・大気管理等、建築系以外の問題が半分以上出題されるため、この勉強に苦戦し2回目で合格しました。この時の合格者祝賀CPDで、学部時代の講義（設備設計演習）でお世話になった非常勤講師のK先生の講演を聞き、「やっぱり技術士って凄いなあ。私もこのレベルに近づきたい。」と思ったことを覚えています。

大学院博士後期課程に進学し、「できれば研究職以外の進路も確保したい」という理由で技術士補登録を目指しましたが、なかなか指導技術士が見つからず、数年間塩漬けにしていました。学位取得後、ポスドクをしていた時に、共同研究でいらしゃった企業の方から、「本気で目指すなら、指導技術士になってもいいよ」言っていたのですが、正規雇用でないと登録ができないことが分かり、正規雇用の研究者になるまで、さらに数年塩漬けにすることになりました。

2013年に大学の専任教員になり、やっと技術士補登録をしました。その学校では初めてのケースだったらしく、手続きに時間がかかったものの、晴れて技術士補になり、実務経験が始まりました。

数年後に実務経験年数を満足し、第二次試験を受

験したのですが、当時は学会大会や地方会の開催・運営、新しい授業担当科目等、本業だけでいっぱいでした。当然、試験勉強が進まずに不合格が続きました。2019年の試験方法変更で、苦手（専門外）分野の勉強負担が減り、2021年に筆記試験を合格して口頭試験に進むことができ、二次試験に合格しました。

3. JABEE認定プログラム所属の教員として

転職してJABEE認定プログラム所属の教員になりました。転職2か月後にJABEE中間審査があり、膨大な資料とその準備の大変さに驚きました。正直なところ、毎回の授業資料と学生のレポートや試験答案類の整理、審査前の自己点検書の準備等、事務作業が多く大変ですが、少しでも学生のメリットになればと思い頑張っています。本音を言えば、JABEEプログラムのメリットを生かして、技術士を目指す学生がいれば、教員のモチベーションも上がるのですが…。ちなみに、皆様がこれを読まれている頃は、JABEEプログラム継続審査（実地審査）の予定です。

技術士になってから、専門科目の講義を少し変えてみました。学部3年後期の「設備計画演習」では、基本的な専門知識を多角的に捉えてまとめる練習として、第二次試験II-1の過去問から「教科書・ネット・図書館の本等、何を参考にしてもO.K.」で解答するという宿題を、数年前から出しています。自分の考えをまとめ、相手に分かりやすい文章を書くのが苦手な学生が多く、何枚も書き直して提出する学生もいます。TA（Teaching Assistant）の大学院生には、まず30分間何も見ずに解き、その後資料を見て、模範解答を作成してもらいますが、「簡単そうに見えるけど、実際は思うように書けない」ようです。しかし、TAが3年生の時に、同じ課題で書いた文章よりも、要点が分かりやすくまとめられていて、大学院生達の成長を感じています。

4. おわりに

苦労して技術士を取得しましたが、ここがゴールではないと考えています。私が学生時代に技術士の先生方に憧れたように、学生が憧れる存在になれるよう、今後も研鑽を積みたいと思います。また、二次試験の口頭試験の最後に「研究だけではなく、何かモノやサービスも作ってくださいね。」と試験官に言われたことも、実現できるように今後も頑張りたいです。

所属：国立大学法人鹿児島大学
(E-mail: satomi@aae.kagoshima-u.ac.jp)

修習技術者の声

技術士への挑戦

もりた としみつ
森田 俊充
(建設(修習)・佐賀)



私は、佐賀県佐賀市に本社を置く建設会社に勤務し、主に現場での施工管理業務を担当してきて5年目となります。

技術士の1次試験を受験したのは、大学3年生の時、大学の掲示板に1次試験の案内のチラシが貼られていたことがきっかけでした。当時は、技術士の資格を取りたくて受験しようとしていたわけではなく、社会人になって勉強できる時間が少なくなる前に取れそうな資格は取っておこうと思い受験しました。結果的には合格することができましたが、2次試験に関しては受験するために実務経験が必要であることや、技術士の資格よりも施工管理技士の資格を優先していたことから受験するとしてもまだまだ先のことだろうと考えていました。

社会人となり、技術士の2次試験の案内がありました。「小論文を書く」というのが私にとって最も

苦手であり、豊富な専門知識や課題解決能力を身に付けておかなければ合格は難しいと感じています。そのためには、まず1日に10分程度でも専門知識に関して調べたりして学ぶ時間を作り習慣にして、とりあえず書いてみようと思います。読み手にとってわかりやすい文章を作成することは日頃の業務でも大切です、書くことで知識も身に付きやすいと思うからです。

今年は、1級土木施工管理技士の2次試験を受験する予定で、そこでも経験記述と言われる文章作成問題があります。技術士2次試験のための文章力を身に付ける練習だと思って必ず合格し、技術士への第1歩としたいと思います。

まだまだ先のことだと思っていた技術士への挑戦が、いつのまにかすぐそこまで来ているので、日々の学習習慣を怠らないように頑張りたいと思います。技術士2次試験に挑戦するだけでも自己研鑽には確実につながると感じています。

この原稿を書き上げたことをきっかけにして、まずはDX(デジタルトランスフォーメーション)や社会資本メンテナンスあたりの勉強から始めていきます。

所属：株式会社中野建設
(E-mail: t-morita@nakanet.co.jp)

初受験を終えて

たなか しゅん
田中 竣
(建設(修習)・宮崎)



私は、転職を機に技術士制度の存在を知りました。転職先の建設コンサルタント会社の技術者として経験を積み、受験資格があるなら一度受けてみようという気持ちで「令和6年度技術士第二次試験」を受験しました。私は、河川の護岸設計や砂防堰堤の調査・設計の業務を担当することが多く、他分野に比べると経験や興味があったことから「建設部門」の「河川、砂防及び海岸・海洋」を選択し、試験に向けて準備を進めました。

試験当日は早めに会場入りし、試験開始に備えました。慌てず落ち着いて試験に挑む心構えでしたが、いざ試験が始まると気持ちが焦り、答案用紙を何度も書き直していました。約5時間半、答案用紙に文章を書いては消しを繰り返し、試験終了となりました。何とか一通り答案用紙を書き終えたかな、とい

う印象でした。

試験後は、帰宅の移動時間を利用して、答案の再現を始めました。数時間前に自分で書いたはずの文章はすでに記憶から抜け始めており、先輩から言われた受験直後の答案再現の重要性を実感しました。

初受験を終えて、一番に思ったことは「もっと勉強しておけば」という後悔と「次は合格する」という強い気持ちでした。答案を再現することで、自分自身の文章力の低さ、知識の浅さを痛感しましたが、自分に欠けていたモノはわかったような気がします。日々の業務を実直に遂行しながら、必要な専門知識とスキルを身につけて、来年の受験に自信をもって挑めるよう精進したいと思います。

最初は「一度受けてみよう」くらいの気持ちで始めた今回の受験ですが、受験を経験したことで、自分自身の課題を客観的に知ることができました。「自分にはまだ早いかもしれない」と思うような事でも、始めてみれば少なからず気付きや成長があるのだと実感しました。技術士第二次試験だけでなく、様々なことに挑戦する気持ちで日々を過ごしていきます。

所属：株式会社晃和コンサルタント
(E-mail: s-tanaka@kouwa-cnsl.co.jp)

地域の話題

宮 崎

たしろうどう
田代隧道

ながの ひろし
永野 広

(建設、総合技術監理・宮崎)



県内各地をドライブしていると、数々の興味を惹かれる建造物に出会うことがあります。意匠を凝らした建物、使用目的が分からないもの、築造された年が江戸時代や明治時代なのに、今でも現役で十分その機能を果たしている建造物です。

そのような中、先輩技術者の苦悩と知恵が偲ばれる構造物として、公務員OB技術士の立場から田代隧道を紹介します。

写真-1は、誰が見ても橋だと勘違いしそうですが、れっきとした隧道、トンネルなのです。



写真-1

土木構造物は、その時代を反映した設計や施工に卓越した技術が用いられています。

しかしながら民主主義国家において、税金で建設する土木構造物は、前提条件として地元の合意と用地買収が必須になります。

田代隧道は、国道388号に編入される前の県道のときに整備され、美郷町役場の近くにあります。

道路改良にあたり縦断勾配を見直した際、改良後の道路が現況より低くなったことから旧道の一部を橋梁として残し、地域を分断しないように配慮された計画であったことが推察できます(写真-2、3)。

では、橋梁が何故トンネルになったのでしょうか。当時、建設に携わった方たち数名に聞いてみましたが、明確な回答は得られませんでした。

もともと、県道の下に石積みアーチ式のトンネルがあり隧道と呼ばれていたそうです。ここからは、筆者の推測になります。県が道路をバイパスとして

整備した場合は、旧道を地元の市町村に移管するのが一般的です。

橋梁なら建設を県で行い、以後の管理は地元市町村になります。ところが愛着のある隧道の形と名前を残して欲しいとの要望があったのでしょうか。地元の願いを叶えるために、以後の管理が県になっても隧道として整備した、当時の技術者達の粋な計らいだったのではないかと思います。



写真-2
1974~1978年
撮影



写真-3
2004年撮影

現在、田代隧道上面は道路として利用され天神橋の親柱があり、路面の維持管理は美郷町が行っていません(写真-4)。



写真-4

昭和62年3月に竣工した延長5.3mの田代隧道は、日本一短い道路トンネルとして、橋の機能を併せ持ちながら地域の暮らしを支えています。

<参考資料>

・国土地理院 地図・空中写真

所属：株式会社晃和コンサルタント

(E-mail: h-nagano@kouwa-cnsl.co.jp)

屋久島の電力事情

こごい ひさお
小古井 久雄
(化学・鹿児島)



1 はじめに

屋久島は、1993年に世界自然遺産に登録され昨年（令和5年）30周年を迎えた。屋久島は、この「自然」が観光面で大きな収入源となっているが、同時にカーボンニュートラル社会、低炭素社会等の観点からも昨今注目を浴びている。屋久島は島外から電力供給を受けておらず、島内電力は屋久島電工株式会社（以下当社）の保有する水力発電所によって賄われている。

2 屋久島の電力

屋久島は雨が多い。年間降水量は4,600mm程度、日本の平均降水量の3倍弱である。山岳部であれば8,000mmともいわれている。この雨を電力に変換するのが当社の保有する尾立ダム、安房川第一発電所、第二発電所である。第一発電所、第二発電所あわせて58,500kW、年間約3億kWhの発電を行っている。発電量のうち、約四分の一は島の民間需要に使用され、残る四分之三は当社がセラミックス粉体（炭化けい素）の製造に消費している。屋久島の電力はほぼすべて当社によるため、その発電構成はそのまま島の電力構成割合となる。2023年度実績では99.96%が水力による電力となっている。残る0.04%は水力発電設備の保守・点検時や台風のトラブル発生時などに、当社保有の火力発電所を稼働させたためである。発電した電力は農協、電気利用組合、電気施設利用組合、九州電力送配電株式会社に提供され、それぞれ地域に送配電されている。



尾立ダム

3 発電設備

最近、当社はマスコミをはじめ様々な会社・団体に興味を持っていただいている。「世界自然遺産の島でほぼ100%の再生可能エネルギーを提供している」ためだと思うが、問い合わせや見学希望が増えている。とはいえ、特殊な設備を備えているわけでもない。ごく普通の水力発電所であり、普通のアーチ式コンクリートダムである。国内の多くの水力発電所に変わらず、第一発電所、尾立ダムは建設以来60年以上が経過し老朽化が進んでいる。特徴があるとすれば第一発電所は当社保有のトロッコに乗り1時間以上かかる山奥にあること、第二発電所発電機は地下170m（海拔0m）に位置していることであろう。双方とも当社保有の設備によらなければアプローチできないし、一般には公開していない。（例外的に縄文杉見学ルートの起点＝荒川登山口で、当社のトロッコに遭遇された方がいらっしゃるかもしれない）

当社としては設備・施設の維持管理には膨大なリソースを費やしている。



第一発電所に向かうトロッコ

4 未来に向けて

屋久島は、白神山地と共に日本で最初に世界自然遺産に登録された。島という限られた空間であり、生態系でも電力の面でも比較的把握しやすい規模の閉鎖系に近いといえる。カーボンニュートラル社会、ゼロカーボン社会への先駆的な取り組みを試みていくのに格好の舞台だろう。現在でも島民はグリーン電力ほぼ100%による生活を送っているが、令和6年度から屋久島町においては脱炭素社会モデルとする取り組みが開始された。当社は、今後もクリーンなエネルギーを屋久島に提供し、住民の皆様と共に屋久島の発展に貢献していきたい。

所属：屋久島電工株式会社
(E-mail : hisao_kogoi@yakuden.co.jp)

土木遺産シリーズ (37)

深浦水雷艇隊基地跡 ～対馬の守り(日清・日露戦争 における要港施設)～

しみず まさあき
清水 正明
(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



1. はじめに

長崎県対馬市美津島町竹敷に位置する深浦水雷艇隊基地跡は、対馬の一大軍事拠点の一部であった。1886年(明治19年)、浅茅湾南部の竹敷港に水雷施設部が設置され、海軍艦艇が出入りするようになった。日清戦争に勝利すると竹敷軍港の艦隊拠点地としての重要性が一段と高まり、竹敷海軍要港部は1896年(明治29年)～1912年(大正元年)までに日本海軍初の要港部として設置された。現在は、海上自衛隊基地として利用されている。深浦水雷艇隊基地跡は、石ドッグとなっており、石積みの完成度の高さ、曲線を利用した技術の高さ、保存状況の良さから、近代土木遺産として誇るべきものである。石ドッグのうち、公用地に面する203mが認定対象となっている(写真-1)。



写真-1 築造120年以上経過した「石ドッグ」

2. 大陸からの「守り」の要

対馬は、朝鮮半島に近いため古来より大陸との文化的・経済的交流の窓口としての役割を果たしてきた。明治期に入ると朝鮮半島を挟んで大陸の清国やロシアと対峙することとなったため、対馬は国境の最前線として国防上重要な拠点に位置付けられるようになった。

3. 日清戦争の勝利

日清戦争(明治27～28年)においては、海軍大尉・鈴木貫太郎のちの海軍大将・侍従長・第2次世界大戦時の総理大臣は、水雷艇長として竹敷の深浦水雷艇基地から出撃、清国威海衛の戦闘や対馬沖海

戦では、多大な貢献をした。海軍は、艦艇根拠地として浅茅湾を軍港に次ぐ重要な港(要港)に位置付け、対馬海域の防御を強化した。

4. 日露戦争の開戦

1904年(明治37年)初頭、ロシアとの関係悪化で戦争は避けられないものとなった。対馬では海軍が望楼の増強、要港防御海面での水雷敷設、側坊砲台が急ピッチで行われた。そのような中で、同年2月9日に日露戦争が開戦した。



図-1 日本海軍が対馬沖でバルチック艦隊を迎撃



図-2 日本海軍水雷艇が日本海海戦の勝利に貢献

5. おわりに

以上のように対馬では、日清、日露戦争の本土防衛態勢を敷いて、特に日露戦争においては、ロシアのバルチック艦隊の出現に備えた。結果的に、1905年(明治38年)にロシアは日本の講和を受け入れた。これからも、対馬の要港施設を「日本の守り」のシンボルとして、大事にしていきたい。

出典ー「ウィキペディア」

「土木学会・選奨土木遺産」

「土木学会西部支部・九州の近代土木遺産」

所属：高松設計コンサルタント

(E-mail : natsc-se6@marble.ocn.ne.jp)

私の建築見積経験から

よこおおじ けいご
横大路 桂吾

(建設、総合技術監理、一建士・福岡)



昨年、還暦を迎え定年となりました。現在、会社の再雇用制度を利用し、シニア社員として働いています。私は、38年前に土木職としてゼネコンに入社しました。最初は中国支店(広島)で、土木の設計・現場を5年間ほど経験しました。その後、本社(東京)で4年間建築の構造設計を担当し、建築職となりました。29年前、九州支店(福岡)に転勤となり、建築の現場を2年間経験した後、今にいたるまでの27年間、支店で建築見積を担当しています。その経験を積んで今感じていることを記載します。

見積とはある建設物を作るのに、弊社ではいくらコストがかかるだろうと金額を試算するのが主な仕事です。条件が同じならコストはどこも似たような金額になるはずですが、企業が工事を受注するための見積手法は、民間と役所では違いますが、私の経験からすると、入札の場合、土木物件の差は、数パーセントの幅の中に何社も入っています。しかし、建築の、特に民間では数十パーセント以上差があるこ

ともよくあります。建築の場合、コストから粗利を足したり引いたり、先取り変更を考慮したプライスが提出金額となります。将来を予測してその辺のさじ加減を調整するのも重要な仕事であると思っています。また、見積は営業と現場のなかだちを担っています。初期の段階で、営業と一緒に発注者の所に赴き、建設物の説明を受けます。その内容が会社の思惑と合致すれば見積します。そして受注出来れば、現場に引き継ぎます。金額を安くすると受注はできませんが、現場での利益回復が難しくなります。逆に高くすると、受注ができなくなり、営業からの不満が出ます。見積の立場として、いかに折り合いをつけるかと言う総監的な考えも必要になります。

私の学生の頃は、構造、土質、水理などの学問は学びましたが、積算学の授業はありませんでした。しかし、世の中に出ると技術以上にお金で動いています。若いうちは技術を磨く必要がありますが、年を取るにつれて、見積や実行予算およびコスト管理などのお金にまつわることが重要になってきます。2022年4月から高校で金融教育が始まりました。更に今年から新NISAも始まっています。今後の建設業界においても技術一辺倒でなく、積算学を学びコスト管理などの金融リテラシーが必要だと思えます。

所属：五洋建設株式会社
(E-mail: keigo.yokooji@mail.penta-ocean.co.jp)

時代に追従する 施設への復興！

よしだ つよし
吉田 剛

(経営工学・北九州)



最近、技術士資格取得の契機になり20年近く行っている“プロジェクトマネジメント研究会”活動に知人から新しいテーマが寄せられた。「北九州市が作った温泉施設”あじさいの湯”が需要の変化と設備の老朽化で施設運営が難しくなり休業している。“施設を何とか復活したい。”という難題である。私も開業直後に利用し、休業実態を知らず、もう一度行ってみたいと思っていた矢先の話であった。

施設は、北九州国定公園内に位置し、2000年11月に開業した。温泉設備が主な建物、280台分の駐車場、菜の花などの景観を楽しめる園地もある。開業から約20年経過し設備も老朽化、加温の電気ボイラー等の改修工事で電気代を削減しても収支の大幅な改善はできない。利用者数は、開業ごろの33万人をピークに民間温浴施設が市内では相次ぎ開業した影響などで減少傾向となり、2016年度15万人にまで落ち込み2019年で休業した。

再開に向け、市は民間事業者からの提案を待つ状況にある。市の調査では、「*高速道路のICや集客拠点から比較的近く、温泉には十分な魅力がある。*温泉は大事だが、温泉だけでは難しい。周辺の自然を生かしたアクティビティなどの導入や、施設自体の魅力を上昇するなど、ここを訪れなくなる付加価値が必要。*コスト削減のため温泉の加温を必要としない温泉プールのような使い方はどうか。」などが寄せられている。研究会は事業再生プロジェクトと捉え、現況調査・問題の本質把握、再生に至るシナリオ(新たな付加価値の創出)を作り、再生に向けた支援者の結集、採算性を高める最新技術の導入など“知恵の出し”をスタートさせた。これまで、技術やマネジメントで幅広く経験した智慧・人脈を最大限活用しながら再開を目指したFSに取り組むことにした。



所属：吉田技術士事務所
(E-mail: tuyoshi-yoshida@nifty.com)

私の趣味 ～さらに5年～

かたふち たいが
片瀨 太雅
(建設・佐賀)



10年前、ミニ特集のコーナーに私の趣味を投稿した。その当時の趣味は『マラソンとフットサル』。その後、10年経過した今の状況を紹介したい。

まずは、マラソンについて。コロナの影響で大会が中止になる時期が続いたこともあり、最近では目標を失い、走行距離がめっきり減ってしまった。加齢により腰や足に痛みが出る事が多く、故障→復帰→故障を繰り返している現状である。地元佐賀で開催されている『さが桜マラソン』にサブ4を目標に出場を続けていたところが懐かしい。

そんな時、転機が訪れた。今年の正月、大学生の長男が次の桜マラソンと一緒に出場したいと言ってくれた。最近ではアキレス腱の炎症も落ち着き、徐々に距離を伸ばしている。会社で発足したランニング部の活動も停滞しているが、今年こそリレーマラソンに挑戦してみたいものである。

次はフットサル。もともと保育園の保護者仲間での交流がきっかけであったため、子供が大きくなるにつれて活動は減少し、今では全くやっていない。最近は、高校生になった次男のサッカー応援が主な活動である。時々試合会場で懐かしい顔に会っては、子供たちの成長をお互い感じている。長男は高校でサッカーを引退したため、残すは次男の応援を残すのみとなった。部活の期間は総体まで残り1年を切ったが、何とかトップチーム入りを果たし、高校総体で有終の美を飾ってもらいたい。

ここ数年は新しい趣味を見つけた。それは料理である。食べ盛りの男兄弟が言い放つ『うまっ』を聞くために、時間を見つけては腕を振っている。もともと料理の才能はないため、SNSを活用しレシピを見つけている。最初は料理研究家リュウジのバスレシピにドハマリし、最近では専らインスタでプロアマ問わず投稿されるレシピを見つけては保存→試作している。

あと数年で50歳を迎えるが、5年後も適度な運動と、バランスのいいおいしいと言ってもらえる料理を趣味に健康に過ごしていきたいものである。

所属：株式会社親和テクノ 佐賀支店
(E-mail: katafuchi@shinwa-techno.co.jp)

地域での活動について思うこと

はしくち しげる
橋口 茂
(建設、総合技術監理・長崎)



Q. 地域では、どんな活動をしてるんですか？

A. 2005年8月から、長崎市内で「川に学ぼうかい in 浦上川 (大橋地区)」という会の事務局をつとめています。フィールドに近い長崎大学の学生と社会人のメンバーで、2ヶ月に1回の清掃等の活動を細々と楽しみながら継続中です。また、地域の自治会でも、浦上川の活動がご縁で2010年度から総務部長をつとめ、近所の方々とは月1回の清掃や防災学習会、交流会、もちつき大会等を何とか続けています。4年前にも、この「ミニ特集」に掲載いただいたんですよ。

Q. 地域で活動するようになったきっかけは？

A. 今から30年ほど前、東京の会社で若手技術者として模索していた頃、当時住んでいた千葉県松戸市内に、たまたま「新坂川をきれいにする会」という会ができ、メンバーに加えてもらったのがきっかけです。この会の定例会等で、当時の会長が「やれた

人がやりましょうね。細々とでいいのよ。」と常々言われてました。この言葉に、何だか力が抜けて、とてもホッとしたのが活動の原点となっておりますね。

Q. 技術士の皆さんに、何かお伝えしたいことは？

A. 活動を通じて、思いがけない出会い、発見や学びがあり、様々な課題を前に非力さを感じつつも、一緒に取り組むメンバーやフィールドの存在が有り難いですね。

今日、気候変動に伴う豪雨災害の頻発化、切迫する巨大地震など、各地で自然災害のリスクが高まる一方、足元で地域の関係の希薄化が指摘され、人材不足も切実です。防災等で重要とされる地域のつながりの再生を促す広報や技術開発、文化の醸成が進み、それぞれの地域で信頼を得て、合意形成や課題解決を図る人材も増えてほしい。公共の安全や環境の保全等を責務とする技術士各位をはじめ、多くの方に、ちょっとずつ地域の活動を支えてもらえたらいいな～と思います。

所属：長崎県長崎振興局 建設部 河川課
(E-mail: s-hashiguchi@pref.nagasaki.lg.jp)

第115回のように



2024.8.3

趣味とは言えないが 今ハマっていること

ぬまち えいじ
沼地 英二
(建設・熊本)



3年ほど前から実家の畑を利用して、家庭菜園(野菜づくり)を始めた。土曜、日曜を利用しての週1日行っているため、できる限り手の掛からない野菜を育てている。

最初の年は、じゃがいもとサツマイモだけであったが、今年は年始めから、たまねぎ、じゃがいも、スナップエンドウ、ナス、ピーマン、キュウリ、ゴーヤ、小玉スイカ、さつまいも、とうもろこし、オクラを定植した。植えてしまえば、ほぼ手が掛からないと思い結構な種類、数となった。今年も6月頃から収穫となったが、この2年間思うほど収穫出来ない。

たまねぎ：らっきょう大が多く、少し大きいのは保存が上手いかず、腐ってしまった。

じゃがいも：数は多いが、小さいものばかり。

キュウリ：昨年余るほどとれたが、今年はゼロ。

小玉スイカ：今年4個着果したが、1個目は収穫が早すぎ中身はピンク色。3個目は収穫が遅れスイカが畑で破裂。残る2個は甘み不足。

とうもろこし：害虫被害、また恐らくカラス被害でこの2年収穫ゼロ。

じゃがいも、サツマイモは、掘ってみなければ大きさも数も形もわからない。スイカは、収穫の時期また食べてみなければわからない。野菜作り、むずかしい。

今年たくさん収穫できたピーマン、ゴーヤは、よくよく考えれば昨年より手を掛けた。やはり、世話をすればするほど収穫できるものと実感した。家族からはもう少し大きい物が良いとか甘い物が食べたいとの要望だ。しかし、自分で育てた物を食べる。特別にうまい。本人は大満足している。

最後に、最も悩まされるのが雑草の管理である。5月までは草取りに励んだ。6月は梅雨期の雨で日程が合わず、作業もできず草は伸び放題となり、7月は暑さにやられて草取りどころではなくなった。

どなたか、教えて欲しい。週1回の野菜づくりで、もっと上手くできる方法はないものだろうか。

所属：旭測量設計株式会社

(E-mail: numachi@asahi-sk.com)

庭園管理士 (一つの士業)

まつかわ こういち
松川 浩一
(建設、応用理学・宮崎)



皆さん、庭園管理士という資格をご存じでしょうか。日本園芸協会が主催する民間資格で、相当額の費用を支払い、半年以上をかけて通信教育により受講する庭園技能講座の修了者に付与される資格です。私がこの資格を取得する切っ掛けは、実家にある40本以上の様々な庭木の管理について、我流で行うより専門の知識を得てやろうかと軽い気持ちで始めたのが発端です。当初は庭木の手入れ(刈り込みや剪定)程度に考えていたのですが、受講内容は、①庭園の概念・様式・歴史、②庭園の構成物(庭木、下草、水景、庭石と石造物、庭園と公園の施設)、③庭園植物の仕立て方と管理(仕立て方と基本の管理、病害虫対策、高木類・低木類・草本類の仕立て方と管理)、④庭園の年間管理、⑤造園施工の実際、等の学習であり多岐に亘ります。具体的には、庭木の植え付けから成長過程での管理、病害虫の予防対策の他、生け垣や庭石の作成なども学び、かなりの時間

を要します。通信教育ですので実技指導は無く、テキストを学習し、家の庭木で実践して受講単元毎の提出課題を提出します。全ての課題を合格すれば終了、資格取得となります。

受講での印象は、庭園管理をする樹木の多さや種類の多さに圧倒されるとともに、樹木毎に成長過程や仕方、花・実の付け方があり、各々時期が異なるため手入れ時期や仕方を変えて管理しなければならず、奥の深い技術とみえました。庭園の管理を極めることは専門職のなせる業(庭師)であり、技術士と同じ士業と感じました。一例を挙げると、花を付ける樹木には花芽分化期(花芽をつける時期)があります。夏場に花芽を付けるツツジ類は手入れ時期を逸して冬に切ってしまうと樹形は整っていますが翌年にはきれいな花が鑑賞できないトレードオフの問題が生じます。庭をどう扱うか、庭の管理といえども気が抜けません。

庭の手入れは地道な作業ですが、手入れ後は様々な樹形や花・実を楽しむことができます。皆様も時には手入れされた庭をじっくり鑑賞されてはいかがでしょうか。

所属：松川技術士事務所

(E-mail: k_matsukawa@gpe-office.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

闘牛の島 徳之島

しんやま しげたか
新山 重孝

(建設、総合技術監理・鹿児島)



私の故郷は、青い海と風に揺れるサトウキビ畑の風景、また闘牛が盛んな奄美群島の中の1つ「徳之島」です。今回は、私の故郷である徳之島の伝統文化『闘牛』についてご案内させていただきます。

世間一般的に、闘牛と言えばスペインやメキシコで行われている人と牛が戦う闘牛が有名ですが、徳之島の闘牛は、牛と牛が戦うBull Fightとなっています。

〈闘牛はいつから始まったのか？〉

牛同士が闘うのは元々持つ縄張り意識から生じるもので、農作業などで使っていた牛が闘う様子を見たことから始まり、農耕を通じて人間と牛が係わりだした頃から自然発生的に生じたとされている。奄美における闘牛の歴史は、約400年前に薩摩藩の支配下に置かれた頃から行われていたと見られ、サトウキビ生産が厳しく統制される「砂糖地獄」に苦しめられた島民唯一の娯楽だったと言われている。

〈勝敗はどのように決まるのか？〉

闘牛の勝敗は、相手が逃げた時点で勝牛が決まる。時には相手を角で突き刺し、勝負ありと判定されることもある。早い勝負で数秒、長引くと数時間闘うこともある。



〈勝ちどき〉

勝ちが決まった瞬間、一族一統が場内になだれ込み、勝牛に飛び乗り、手舞い、足舞い、指笛で歓喜する。ラッパ、太鼓の音もひととき高く鳴き勝牛は場内を意気揚々と一周する。



徳之島は、天然記念物のアマミノクロウサギをはじめとする

希少な動物や、徳之島にのみ生息する固有の動植物が存在することなどから「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」世界自然遺産の一部にもなっています。

ぜひ一度、観光に訪れてみては、いかがでしょうか!!

所属：株式会社 コバルト技建

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

たぬま かずお
田沼 和夫

副会長・理事 (フェロー・建設、総合技術監理、CPD認定・福岡)



2024年度第2回理事会が2024年7月9日(火) 14:00から18:00まで開催されました。審議事項は6件で、報告事項は10件でした。

審議事項は、

1. 委員会運営に関する規則(日韓技術士交流委員会)の変更について
2. 修習技術者支援委員会
インフラテクコン技術士会賞選定ワーキンググループの設置について
3. J-Stageへの月間「技術士」記事の掲載
4. 審議員の再任について
5. 委員会委員等の異動について
6. 会員の入会等について

報告事項は、

1. 第66回定時総会開催結果報告について
2. 令和6年度技術士第二次試験受験申込状況について
3. 科学技術・学術審議会技術士分科会について
4. 技術士CPD実績管理登録状況
5. 日本機械学会との行事の共催について
6. 会員による活動グループの登録に関わる手引きの改定について
7. 会員による活動グループの登録審査結果について
8. 緩やかな連携(大学技術士会との協定)について
9. 常設委員会等報告について
10. 2024年度業務状況報告について

今回、審議事項と報告事項の全てを記載しました。項目を見ていただくと理事会の概要が的確に把握出来ると思ったからです。九州本部の現状を理事会に積極的に伝えていきます。

九州本部の役員、会員の皆様のご支援のおかげで理事会に出席させていただいています。ご要望は、下記メールアドレスにさせていただくと幸いです。

所属：産業開発コンサルタント株式会社
(E-mail: tanuma2@bronze.ocn.ne.jp)

委員会・部会報告

地域本部長会議

2024年度第1回 地域本部長会議報告

九州本部長 ^{さ た け} ^{よ し ろ う}
佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2024年6月3日(月)機械振興会館(東京)で開催した2024年度第1回地域本部長会議の概要を報告する。

[統括本部より説明]

1. CPD行事受講証は新様式に統一するよう要請があった。
2. SDGsに関する情報発信について、統括本部の取組だけでなく、地域本部においての取組状況の調査について協力要請があった。

[地域本部よりの審議事項及び意見要望等]

1. 技術士試験の「途中退室は失格」ルールについて見直して欲しい(東北)
→途中退場を認めるかについて検討します(統括本部)
2. 全国大会の総括として、来賓対応を含めたガイドラインの明示や実施結果に係る情報の蓄積、補助金の増額を含めた金銭的支援の配慮といった課題が示された。また、引継ぎ事項が紹介さ

- れた。(中部)
3. 技術士の知名度向上にもっと取り組めないか。「新プロジェクトX」等に技術士が出てこない。働きかけはできないだろうか(九州)
→広報委員会を中心に日本技術士会から報道機関等に積極的に情報発信していく。地域本部も同様な取組をお願いしたい(統括本部)
また、講演頂いた著名な技術者への名誉技術士を付与する制度も検討頂きたいとの意見があった。
 4. 年2回防災講演会を開催している。土業連絡会には協賛で参加頂いている。他の地域本部はどういう形で参加頂いているか(中国)
→近畿本部が主催し、土業連絡会には後援を頂いている(近畿)。土業連絡会が主催し、東北本部は協賛している(東北)
 5. 国土交通省の新技術活用評価会議への参加について、審査をどうしているか。
→地域連携強化委員会という委員会を設置して対応している(近畿)。資格活用委員会内にWGを設置して対応することとした(統括本部)。WGを設置するが、その位置づけは未定である(九州、中国)

[地域本部報告]

1. 近畿本部は、第28回西日本技術士研究・業績発表年次大会(大阪)を2024年12月6日(金)～7日(土)に開催予定です。
所属：株式会社新英コアテクニカ
(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbiiq.jp)

統括本部総務委員会

余間

総務委員 ^{に し い} ^{や す ひ ろ}
西井 康浩
(建設、フェロー、CPD認定、博士(工学)・北九州)



今回は、この原稿の締切日と2023-25期第7回総務委員会の開催日が前後しましたので、通常の委員会報告ではなく、総務委員会の審議中に経験した貴重な“セレンディピティ”を紹介します。

それは、2023年10月12日の2023-25第2回総務委員会の中で、「本会役員の実務に関する手引の改訂」について審議していたときのことでした。議論が白熱する中、次のような話題提供がありました。

組織的独立性の確保にある「その役員の実務は厳に許されない」の意味をどう捉えているか、またそこに定義される「信用失墜にも繋がる双方の立場を利用しての活動は許されない」にどう対応しているかというものでした。具体的には、委員会活動の役職名(委員名など)を個人または所属組織の名刺へ併記することは、信用失墜の観点から厳に避けるべきとの論点が示されました。また同時に関連団体等での講演においても、講師として登壇する場合には、

事前に準備するプロフィールについて同様の配慮が必要ではとの意見も示されました。

つまり、日本技術士会の役員は、利害関係が生じる状況で肩書を使うことが利益誘導と見なされる恐れがあるため、これを厳に慎むべきという見解です。

私はこの姿勢に習い、名刺を全て刷り直しました。今私は4つの肩書で活動しています。名刺も個別に刷り、使い分けています。1つ目が日本技術士会です。ここでは技術士同士、さらに統括本部や地域本部とのコミュニケーションを図るため、当然役職名は入れています。2つ目が客員教授を務めています大学の名刺です。ここでは指定様式に学位と資格しか入れていません。3つ目が個人事務所の代表の名刺です。ここには資格と学位、所属先の学術組織名を入れています。4つ目が顧問契約を結んでいる企業2社の名刺ですが、ここでは最も利害関係が懸念されますので、資格と学位だけを簡単に示す名刺にしています。

ここまで述べた行為は、技術士個人の品格や技術者としての矜持に関わる問題であり、同時に技術者倫理の観点から俯瞰しても、そこに技術士のアイデンティティが萌芽する重要な機会になると考えています。

みなさま、もしよければご自身の名刺、今一度見直されてみてはいかがでしょうか。

所属：西井技術士事務所
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

委員会・部会報告

合同役員会

2024年度 第1回合同役員会

事務局長 ^{てらち} 寺地 ^{まもる} 守
(建設・福岡)



7月13日、年次大会、講演会ののち、合同役員会を開催しました。議事録は、ホームページ会員専用アップしていますので、ここでは要点だけ報告します。

合同役員会は、九州本部役員32名と県支部代表6名からなる38名の会議です。コロナ以降毎回WEB併用の会議方式が定着しました。

年度当初にあたり、年間の主要行事を確認し、また新たに活動に参加していただく委員会委員、部会幹事の変更を承認しました。

事業、予算面では、来年の全国大会（熊本）開催に向けた準備を進めつつ、収支差の改善に向けて、CPD参加費収入の増加やWEB利用による経費節減などに努めることとしました。各委員会、部会からの事業計画や委員、部会幹事名などHP会員専用に掲載しておりますのでご確認ください。

主な審議は、第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）の開催に向けた準備について、清崎実行委員長から報告があり、実行委員会メンバー、大会名称、テーマ、分科会テーマなど審議し、本年10月札幌で配布する案内の準備を行いました（印刷原稿を送付済み）。また、技術士資格活用の一環として、「九州地方整備局新技術活用評価会議委員」として西井幹事を推薦し、併せて技術士会が保有する幅広い専門分野の知見を十分反映するための支援を行うことを目的に「ワーキンググループ」を設置することになりました。

報告事項では、理事会、地域本部長からの報告のほか、統括本部の常任委員会、実行委員会に参加されている（倫理、総務、青年、社会・防災支援）の各委員から活動報告があり、熊本で10月開催する内閣府主催の「ぼうさい国体」に技術士会が参加することの報告などがありました。

このほか、協賛団体会員に大福コンサルタントの入会承認、後援名義の許諾等の報告、熊本、鹿児島からのマスコミ掲載報告などありました。また、「技術士だより・九州」への定例的な役割上の執筆への謝礼取扱いの変更を承認しました。

所属：日本地研株式会社
(E-mail: terachi@chiken.co.jp)

地域産業支援委員会

技術相談件数の増加策 ～その後～

地域産業支援委員会委員 ^{やまだ} 山田 ^{のぶお} 伸雄
(建設・福岡)



地域産業支援委員会では、相談件数を増やす取り組みとして、昨年7月より「多様な手段でコンテンツを発信」する準備を始めた。

その中で、公開直前まで進んでいるのが「Web寄稿文（技術士紹介）」である。これは、各技術士を一般の方々（技術士会外部）に対して紹介するコンテンツであり、人物や専門技術を分かりやすく記述したものである。現在、各技術士の得意分野や内容を整理したものは支援アドバイザーリスト（技術士会内部向け）であり、一般の方々が各技術士を知る手段は無い。

そもそも、世間一般では技術士会のことを知らない人がほとんどであり、「技術士会にぜひ相談下さい」と声高に言ったとしても、どんな集団なのか見

当もつかないところに相談する人はいないであろう。

まずは「謎の集団」から「相談できそうな頼れる集団」になることが必要である。そのためには、人物像や自己の専門内容、技術紹介を通じて技術士を知ってもらうことが第一歩だと考えたわけである。

そうした目的から、Web寄稿文は、技術士の専門や技術力、経験だけでなく、顔や個性が分かり、人間味のあるものにする必要がある。

寄稿文サイトは九州本部HPからリンクで飛び、その管理は当委員会で行う。サイト名は「技術士の窓～たずねてみよう技術と経験の交差点～」とした。この窓を通して、技術士とはどんな人たちがを覗いていただきたいという思いからである。

寄稿文第一号のWeb公開予定は9月である。運用開始後は、できれば毎月のように新しい「顔」を紹介していきたく考えている。一般の方々に向けた寄稿に興味がある方はぜひご連絡下さい。



所属：株式会社セルコン
(E-mail: nobuo.yamada@selcon.co.jp)

防災委員会

感田小学校での 防災授業

防災委員会委員 **梅田 和久**
(建設・福岡)



1. 感田小学校と防災授業

直方市立感田小学校は、直方市の北部に位置し、北九州市に隣接する児童数600名程度の大型校である。

防災委員会では、令和3年度より感田小の4・5・6年生を対象とした防災授業に取り組んできた。

2. 防災授業のねらい

防災授業は、3カ年の授業カリキュラムとして

- ・4年生 (R3) 「防災学習の動機付け」
- ・5年生 (R4) 「防災と地域についての学習」
- ・6年生 (R5) 「防災を能動的に考える」

を提案し実施している。ここでは、3カ年目の6年生の授業を取り上げ、授業でのポイント、その成果、今後の課題について述べる。

3. 防災授業のポイント

〈ポイント-1〉 6年生は、自ら考え率先して避難行動を起こす人間に成長する。そして、自ら「防災探偵」となって通学路の危険個所を見出し「防災マップ」をつくることを計画した。

〈ポイント-2〉 感田地区の情報は、5年生の授業でハザードマップを教材として扱われてきたが、実際に校区で何が起これり児童たちが危険個所をどう感じているのが不明なため「事前アンケート」を行った。これにより明確に危険個所を把握した。

〈ポイント-3〉 最終的に、通学路の危険個所について100名を超える生徒に「防災探偵」になってもらうには様々な面でハードルがあった。このため、校内でのグループワーク（防災マップとタイムラインづくり）と発表のプログラムとした。

4. 成果と今後の課題

「防災を能動的に考える」一つの答えとして、**意見交換と情報共有**によって児童の意識向上があったと考えたい。児童の発表は、決してスマートではなかったが12歳の等身大の発表だったと思う。

今後は、地域・PTAとの連携や校外における防災探偵の活躍により情報発信と防災向上に期待したい。

所属：株式会社コンコード環境デザイン研究所
(E-mail : kazuhisa_umeda@mms.bbq.jp)

倫理委員会

活動報告

倫理委員会委員 **宮園 穰二**
(建設・鹿児島)



1. はじめに

倫理委員会は、活動管理、教育啓発、企画・配信、連携・交流の4つのタスクチームが活動しています。倫理委員会第1回定例会が6月15日に開催され、1) 新倫理綱領についての意見交換、2) タスクチームからの報告・協議、3) 会務報告等が行われました。

このなかで、1) 新倫理綱領に関する講演について紹介します。

2. 新倫理綱領「8.法令等の遵守」について

河本委員(北九州地区支部)が、技術士倫理綱領「8.法令等の遵守」の改訂内容と考察、法令に関する事例紹介、海外業務時の留意内容について講演された。

改定前は9条だったが、今回は8条となり、表現が、「業務の対象となる」、「法規」、「文化的価値」か

ら、「業務に関わる」、「法令等」、「文化」に変わった。「文化的価値」から「文化」へ、「業務の対象となる」から「業務に関わる」への改訂で、対象範囲を広く変更したことは理解できる。

技術士は、海外での業務や海外と関わる業務が増加しており、国内外に関わらず業務に関わる法令等は、常に最新動向を定期的に確認すべきである。業務に関わる国・地域の文化、価値観、多様性を当然ながら理解すべきである。また、9義務との関連を認識すべきであり、特に規範遵守義務は関連性が強い。

過去には、ある自動車メーカーにおいて、当時の安全基準は満たしていたものの、構造上の欠陥があり、これに気づいていたが賠償金額とリコール費用を比較計算し、リコールを行わず、結果的に、多数の死傷事故が発生した事例もある。人間の命と物の価値は天秤にかけることはできない。安全を他の諸条件とトレードオフにはできない。

まとめとして、消費者保護の視点で法令整備が常に行われているが、法令整備は科学技術の進歩には追いついていない。法と倫理は補完関係にある。法では足りないところを倫理が補い、倫理では足りないところを法が補う。

所属：株式会社建設技術研究所鹿児島事務所
(E-mail : joj-miyazono@ctie.co.jp)

委員会・部会報告

北九州地区支部支援委員会

2024年度上期 活動報告と下期計画

北九州地区支部支援委員長
さかた かずのり
坂田 一則
(金属、総合技術監理、博士(工学)・北九州)



1. はじめに

北九州地区支部支援委員会の2024年度上期のCPD研鑽会を中心とした活動状況と下期の計画の概要を報告する。

2. 主な上期活動報告及び下期計画

2-1. CPD研鑽会の継続実施

2023年度は、北九州地区支部支援委員会CPD研鑽会の参加者実績数は累計で504名であったが、2024年度はCPD（11回開催予定）研鑽会の参加者予定者数を460名と見込んでいる。特に、2024年度は、当該委員会の本来の目的の一つである会員相互の交流を達成するために、主催会場参加者数の増加を目指す企画を行っている。

2-2. 施設見学の復活

新型コロナウイルス感染症対策で中断していた施設見学会を10月5日に開催する準備を進めている。北九州市若松区南二島2-23-1にあるシャボン玉石けん株式会社（会社の理念：健康な体ときれいな水を守る）を訪問し、工場見学と技術講演を行う予定である。

2-3. 公開シンポジウム・合格者祝賀懇親会

1) 第15回公開シンポジウム

2024年12月14日（土）13時から九州本部主催で北九州市生涯学習センター3階ホールを会場として、「今、この地域で技術文化のパッションを繋げ！」～人口減少時代、自分のルーツを考え技術を伝える～をテーマに、第一部で深堀 聡子氏（九州大学 未来人材育成機構教授）の問題提起、第二部において産・官・民・技術士からの取組みを紹介、第三部ではパネルディスカッションを予定している。

2) 合格者祝賀懇親会

公開シンポジウム終了後、会場を小倉リーセントホテルに移して、技術士合格者祝賀会と忘年会を兼ねた会員相互の交流・懇親会を開催予定である。

所属：坂田一則 技術士・労働安全コンサルタント
(E-mail: ksakata@bronze.ocn.ne.jp)

青年技術士交流委員会

夏休み小・中学生 自由研究教室

青年技術士交流委員長
やまだ あきみち
山田 暁通
(情報工学・福岡)



九州本部青年技術士交流委員会では、子供たちの理科離れ・技術者の減少といった社会課題への働きかけとして、子供たちの科学や技術に対する興味関心を育てることを目的とした「夏休み小・中学生自由研究教室」というイベントを実施しています。過去には、新幹線のトンネル工事現場や空港の見学会や、干潟の生態系観察・樹木医体験、地図の歴史や可能性を学ぶなど、多様な企画を行っています。

今回は、2024年7月27日(土)に西日本工業大学さまのご協力のもと、小学生と中学生を対象に「わくわく理科教室」というテーマで、以下の科学体験を実際に経験してもらいました。

- ロボット：ラインレース
- 空気：空気の重さ、真空、空気泡
- 水：浮沈子、トルネード、表面張力

- 電気：ファラデーのモーター
- 熱：あぶり出し
- 磁石：磁石を使ったパズル



「わくわく理科教室」の様子

西日本工業大学の方々（眞田先生、山縣先生、在学大学生4名）に小・中学生に分かりやすく説明をして頂きながら科学を体験させて頂きました。はじめに、眞田先生より参加者へ空気の重さや真空について説明頂きました（左図）。その後、各テーブルに準備された化学実験を親子で体験しました（右図：空気泡）。他にも、大学生が硬貨やペットボトル、乾電池といった身近な道具を使った実験を子供目線で優しく説明してくれたおかげで、是非自宅でもやりたいとの声も上がるなど、大変好評な自由研究教室となりました。

所属：株式会社ロバストプラン
(E-mail: akimichi@robustplan.com)

試験業務支援委員会

活動報告

試験業務支援委員長 **はっとり 服部 弘政**
(電気電子・福岡)



令和6年度の試験業務支援委員会の活動について報告する。5月23日(木)に福岡工業大学を訪問し技術士第二次試験の打ち合わせを行った。5月30日(水)試験統括本部と各地域本部で技術士第二次試験の事前会議を行った。また、6月28日九州本部会議室で試験委員会を行った。福岡工業大学にて7月14日(日)に総合技術監理部門を実施した。

試験科目及び試験方法は、必須科目Ⅰ-1で択一式(10時~12時)、必須科目Ⅰ-2で記述式(13時~16時30分)である。必須科目Ⅰ-1は、申込者数319、受験者数257、欠席者数62、受験率80.6%であった。

必須科目Ⅰ-2は、申込者数319、受験者数253、欠席者数66、受験率79.3%であった。

7月15日(月)に総合技術監理部門以外の20技術部門の技術士第二次試験を実施した。試験科目及び試験方法は、必須科目Ⅰで記述式(10時~12時)、選択科目Ⅱ、選択科目Ⅲ(13時~16時30分)である。

必須科目Ⅰは、申込者数2746、受験者数2047、欠席者数699、受験率74.5%であった。選択科目Ⅱ、Ⅲは、申込者数2746、受験者数1959、欠席者数789、受験率71.3%であった。

試験の反省会は、試験委員でのグループLineを活用して課題・反省点を収集した。7月30日に福岡工業大学を訪問し、技術士第二次試験完了のお礼と令和7年度の試験会場のお願いをした。11月24日(日)の技術士第一次試験についての準備ため、試験会場の九州産業大学を訪問し技術士1次試験の打ち合わせを行い、また試験に必要な準備をして試験を実施したいと考えている。技術士第一試験の試験科目及び試験方法は、①専門科目は択一式(10時30分~12時30分)②適性科目は択一式(13時30分~14時30分)③基礎科目は択一式(15時~16時である。当日は、実施マニュアルにより試験を実施する。

所属：服部技術士事務所
(E-mail: rbnbf375@yahoo.co.jp)

建設部会

建設部会報告

建設部会長 **おかだ ひろあき 裕彰**
(建設、総合技術監理・福岡)



建設部会の今年度の活動予定等について、以下の通り報告します。

1. 現地見学会

複数の視察候補箇所を比較検討した結果、建設部会藤島幹事・藤井幹事の企画提案で、視察先は「福岡空港」並びに「国道201号八木山バイパス」と決定しました。どちらも福岡県内で行われている大きなプロジェクトです。

福岡空港は、2022年度の建設部会現地見学会で視察いたしました。その後事業も進捗し、工事が進んでいる第二滑走路が2025年3月末に供用開始される予定となり、事業実施中の制限区域内の現場に入れる貴重な機会になること、また国際線地区の施設整備も更に進んでいる事から視察先として選定しました。

また、国道201号八木山バイパスは現在対面交通の篠栗ICから筑穂ICの区間が2024年度中に4車線

化される予定で事業が進んでおり、供用開始間近の現場を視察できる貴重な機会となることから選定しました。現場見学会は、11月13日(水)を予定しています。詳細はHP等でご確認ください。多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。

2. 技術講演会

テーマや実施時期等については現在検討中です。詳細が固まり次第HP等でお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

3. 土木遺産シリーズ

本誌に連載されている「土木遺産シリーズ」は、私たちの身近にある歴史的な土木施設や過去の災害記録などを掘り起こして紹介する企画です。平成27年度から連載が始まり、これまで福岡・鹿児島・佐賀・大分・宮崎と各県支部の皆様のリレー形式で執筆され、今年で9年目を迎えました。

お忙しい中、現地の調査・執筆にご協力いただいた各県支部の皆様にご改めてお礼申し上げます。また、引き続きのご協力よろしくお願いいたします。

4. おわりに

建設部会では、会員の皆様の資質向上を図れるCPD行事などの企画に積極的に取り組んでいきます。会員の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroaki.okada.km@nnr-g.com)

委員会・部会報告

環境部会

環境部会報告

環境部会長 ^{まつだ} ^{けんし}
松田 研志
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

環境部会は、福岡地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の技術部門の技術士が構成員であり、部会員の継続研鑽、関連学協会との連携を主たる活動目的としています。

本稿では、環境部会の2024年度の活動状況と活動計画について報告いたします。

2. 環境部会幹事会

環境部会幹事会は、13名の幹事で構成されており、九州本部会議室で対面式により2回実施しました。

見学会と講演会の充実に向けて幹事一同、見学会のテーマ、見学先、見学日程、見学内容、講演会のテーマ、講師、公演日程、演題等を検討いたしました。

今年度は、今後2回実施し、見学会と講演会が円滑に実施できるよう検討いたします。

3. 見学会

今年度の見学会は、①福岡都市圏に用水を供給し、設立50周年を迎えた福岡地区水道企業団の牛頸浄水場と水質センター、②食品廃棄物を原料としてガス発電を行っている福岡バイオフィードリサイクル株式会社の2つとしました。

開催日は、12月12日(木)を予定しています。

当初10月に予定していましたが、貸切バスの確保ができず、12月に変更いたしました。

4. 講演会

今年度の講演会は、①福岡の大気環境をテーマとして「大気環境のトピックス～福岡県の大気環境の現状と課題～」、②自然災害対策をテーマとして「能登半島地震被災地における福岡市水道局の支援」の2つとしました。

開催日は、11月20日(水)を予定しています。

5. おわりに

見学会、講演会とも会員の皆様の多数のご参加を希望いたします。

所属：松田技術士事務所
(E-mail : matsu1@docomonet.jp)

支部だより

佐賀

令和6年度支部年次大会と技術士制度説明会の開催

佐賀県支部 支部長 ^{ふくおか} ^{さとし}
福岡 仁
(建設・佐賀)



令和6年5月25日(土)に「令和6年度佐賀県支部の年次大会と第1回技術懇話会」をメートプラザ佐賀(佐賀市)で開催しました。年次大会では、令和5年度の事業報告と決算、今年度の事業計画を報告しました。その後、第1回技術懇話会を開催し、会員及び県内技術者25名の参加がありました。今年度より5年間は「環境保全による低炭素社会の実現」を新しいテーマとして、20講話を予定しています。今回は、2050年までのカーボンニュートラルの実現をふまえて、佐賀県内の2つの事業所における取り組みについて下記の紹介がありました

【テーマ1】：「事業所における脱炭素化(既存建屋のZEB化)と地中熱利用空調システムの活用

講師：株式会社バイオテックス 城添 正弘氏
事業所における地中熱を利用した空調システムの

活用とFCV、EV車両の導入による省エネルギー化などの取り組み内容、さらに地中熱利用システムの普及拡大にむけた計画について説明がありました。
【テーマ2】：「地域とともに循環型社会に貢献しカーボンニュートラルを実現する」～家庭系UCO(廃食用油)の利活用を軸とした佐賀ローカルSDGsパートナーシップ事業について～

講師：田中鉄工株式会社 陣内 太氏
道路舗装業界のカーボンニュートラルの実現を目標とし、CO₂削減量の可視化によるサーキュラーエコノミーの推進と家庭系廃食油のリサイクルによる環境負荷軽減への取り組みについて説明がありました。

令和6年6月17日(月)には、技術士制度の説明会を佐賀大学都市工学科にて行いました。初めての試みでしたが、約90名の学生が参加し、技術士の定義や技術士に求められている能力や資質など、メモをとりながら熱心に聞いていました。第一次試験には、佐賀大学から100名以上の受験者がいると聞き、佐賀県に多くの実践的な人材が育つことを期待しました。

これからも、さまざまな企画を通じて、佐賀県の技術者の活動と交流の幅を広げたいと考えています。

所属：株式会社親和コンサルタント
(E-mail : fukuoka@sinwa-consultant.jp)

長 崎

ついにWebミーティング用パソコン購入

長崎県支部事務局長 おりた さだよし
折田 定良
(建設・長崎)



昨年5月に新型コロナウイルス感染症が「五類感染症」に移行し、1年余りが経過して長崎県支部の活動も平常に近いものになりつつあります。支部の幹事会やCPD研修会など対面で行うことが多くなってきました。

新型コロナによる自粛の際は、リモート形式の会合や在宅勤務等が一般的となる中で、機材やスキルの不足により、Webやリモートワークに踏み切れないうでいました。しかし、幹事会にて改良が必要とのことで、遅まきながら今年度より機材を揃えて、対応していくことが決定しました。

最近の支部主催の研修会では、カンボジアの現地におられる講師の方からリモートで講義を受けるということもありました。その際は、県支部の事務局を引き受けていただいている(株)扇精光コンサルタンツに機材、人材すべて応援していただき、何事もなく対応することができました。

まず、何を購入して良いかという所から始まり、ノートパソコン、Web用スピーカ、Webカメラ諸々を購入し、ZOOM Meetingのライセンスを取得しました。

機材が揃ったところでパソコンの維持管理と機器類の操作が必要となります。最も懸念される事態が設備や操作の不備で研修会や会議が止まってしまうことです。若い世代が少ない幹事だけでは、AI機器に詳しい者もなく、手の打ちようがありませんので、事前にテスト等を行い習得に務めていくしかありません。

Windowsは10から11に移行し、ZOOM MeetingもZOOM Workplaceと代わりパソコン画面も目まぐるしく変わっていきます。

事務会計においては、昨秋からインボイス対応の会計処理が必要となり、さらに今年は、長崎県支部創立10周年を迎え、記念誌の編纂も始まっており、パソコンのスキルがないと何もできないご時世です。これに対し、仕事は一線を退き、現役時代ほどAIに接する機会もありません。

「ボケ防止」と肝に銘じて、分からないところは九州本部、各県支部のお知恵をお借りしながら、積極的に習得に努めようと考えています。

所属：株式会社五省コンサルタント長崎事務所
(E-mail: s.oriata@zb4.so-net.ne.jp)

大 分

大分県支部年次報告会及びCPD研修会の開催

大分県支部幹事(広報担当) あべ つとむ
安部 勉
(建設、総合技術監理・大分)



去る6月22日、大分市のコンパルホールで大分県支部と大分県技術士協議会合同の年次報告会が参加者51名(うち合格者8名)の参加のもと開催されました。

報告会は、湯地支部長の挨拶から始まり、大分県土木建築部の五ノ谷部長よりご来賓挨拶をいただきました。続いて、事務局より令和5年度事業報告並びに令和6年度事業計画についての説明があり、その後、九州本部の各委員会(広報委員会、地域産業支援委員会、倫理委員会、防災委員会、青年技術士交流委員会)による報告がありました。

今回のCPD研修会は、(株)レックスの植木講師より演題『再生燃料の活用と野鳥の会および野鳥観察』として再生燃料(Reclaiming Fuel)製造フロー

やRF化が可能な廃棄物等について、分かりやすい講話で知識を深めるとともに、野鳥の会や野鳥のフィールド調査結果等については興味深く聴くことができました。

報告会終了後、新規合格者祝賀会を兼ねた懇親会が開催されました。和田副支部長による挨拶の後に乾杯。イタリア料理を堪能しつつ、活発な意見交換や新規合格者の自己紹介等が行われ、会員相互の親睦を深めていました。

また、令和6年度はコロナの間、中止していた見学会も再開予定とのことで、ようやくコロナ前の状態に戻りつつあるのを感じました。

最後に、松原副支部長による一本締めで会を締め、散会となりました。



所属：株式会社安部組
(E-mail: abe-t.abe@shirt.ocn.ne.jp)

CPD報告

福岡

研修委員会 2024年度九州本部 第1回CPD報告

研修副委員長 よしずみ たかひさ
吉住 高久
(機械・福岡)



2024年5月25日(土)、九州本部研修委員会主催による第1回CPDが福岡商工会議所において開催された。参加者は会場参加42名、WEB参加46名の合計88名であった。講師には4名の専門家にご登壇いただき、貴重な講話を賜った。また各講演終了後、講師と聴講者による活発な質疑応答が行われたことも付記しておく。

各講演の概要は次の通りである。

1. 「海洋プラスチック問題の現状と課題」

講師：清野 聡子氏

(九州大学大学院工学研究院 環境社会部門 生態工学研究室 准教授／Ph.D.)

海洋環境分野では、海ごみ、生物調査、水質が重要視されており、特に対馬海流で運ばれる海外ゴミが漂着する九州北部域は重要な海域である。海ごみは日本で回収されなければ、海流に乗って世界中に広がる。近年、若者や企業が海ごみ回収に参加し、ビジネスとしての解決策を模索している。海洋マイクロプラスチック問題では、市民の「自分ごと化」が重要で、国内外の制度や条約も関係する。市民との接点は専門家の普及啓発から参加型へ、さらに「地域知」を活かした協働の知へと進化していることを解説された。



2. 「海ごみについて考えよう」

講師：岩崎 光氏

(福岡県環境部廃棄物対策課主任主事)

本講演では、海ごみの発生源、問題点、回収状況、プラスチックやマイクロプラスチックの概要、県の取り組み、海ごみ削減のためにできることを説明された。海ごみは、ポイ捨てなどから水路や川を経て海に流れ込み、生態系や船舶航行、観光・漁業に悪影響を及ぼす。海ゴミの構成割合では、プラスチック類が多くマイクロプラスチック問題へと繋がっている。福岡県では海での回収だけでなく、発生源となる内陸部における流出抑制策などの取り組みも解説された。



3. 「子どもたちが今いるここで 持続可能な居場所づくり活動」

講師：秋葉 祐三子氏

(特定非営利活動法人あそびとまなび研究所 理事長)

講演では、SDGsの重要性、特に子どもの権利と環境教育の必要性を訴え、持続可能な社会の実現に向けた取り組みについて講演された。「あそびとまなび研究所」は、子ども食堂、学習支援、野外活動、フードパントリーなどを通して、子どもたちが自然と触れ合い、環境問題への意識を高める活動を行っている。



子供会活動の拠点として開始した「ひびきのbase」は、コロナ禍においても、子どもたちの暮らしと遊びの物理的な拠点として機能し、地域の子どもの居場所づくりに貢献してきた。講演では、同研究所の活動を通して、子どもたちが自然の豊かさや命のかけがえのなさを体感し、持続可能な社会への意識を高めることの重要性を訴えている。

具体的な活動としては、竹コンポストや食品ロス削減、海辺や森での野外活動などが挙げられる。これらの活動を通して、子どもたちが地域社会の一員として、積極的に環境問題に取り組む姿勢を育むことを目指していることを説明された。

4. 「技術は地球を救えるか!？」

講師：白井 義人氏

(九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授／博士(農学))

講師が長年取組まれているマレーシアのパームオイル産業について「技術は地球を救えるか!？」の視点で講演された。油ヤシを用いたパームオイルの生産と油ヤシの実の収穫時に放出、廃棄される油ヤシの果実房からの膨大なバイオマスを利用することにより、新規エネルギー、カーボンフリーで新たな持続可能な材料の生産。さらに、油ヤシのプランテーションと熱帯雨林を有効に利用し、世界から多くのエコツーリズムを招き、プランテーションと熱帯雨林そのものを東京デズニールランドを超えるアミューズメントパークにするアイデアを紹介された。パームオイル産業と自然環境の間にWin-Winな関係を作り出すため北九州市の公害克服の経験と歴史に学ぼう!!と講演を締めくくられた。



(E-mail : tac-tac_flag-zumi_7249@nifty.com)

鹿児島

第43回 CPD講演会報告

副支部長 ^{たかあぜ} **高畦** ^{ひろし} **博**
(建設、総合技術監理・鹿児島)



1. はじめに

2024年8月10日(土)、カクイックス交流センター(かごしま県民交流センター)で第43回CPD講演会を開催した。県内外から38名(うち会員31名)の参加を得た。

2. 『鶴田ダムに関する最近の話題』上村 雅文氏(国土交通省九州地方整備局鶴田ダム管理所長)

直轄ダムとして九州最大規模である鶴田ダムについて、様々な観点からご講演いただいた。ダムに関する法令、ダムの構造、ダム施工技術の変遷では、ダムになじみが少ない技術者にもわかりやすく説明いただいた。後半は、鶴田ダムにおける様々な問題や話題提供があった。平成18年7月の鹿児島県北部豪雨災害を契機とした鶴田ダム再開発で洪水調節容量を大幅に増やした経緯や、令和3年7月出水では柔軟操作により被害低減を図ることができたとの報告があった。

先の豪雨災害を契機として、地域の方々と意見交換を通してダム管理の理解を深めてきたこと、近年では外来水草繁茂発生の対応、地域NPOと連携したインフラツーリズムなど、多岐にわたる内容であった。

3. 『IoTを支えるネットワークを考える』馬場 伸一氏(第一工科大学 教授)

DX(デジタルトランスフォーメーション)の実現にかかせないデータ収集や機器制御を支援するIoT(Internet of Things)の概要と、IoTの普及過程で開発されてきた無線ネットワークに関する様々な技術やその形成過程などについてご講演いただいた。IoTの進化によって身の回りの生活が知らない間に便利になっている。無線やネットワーク構築の役割が大きく、今回、IoTの歴史、関連用語、システムアーキテクチャ、IoTネットワークの役割、IoTで使われる通信規格・プロトコルなど概要や役割について丁寧な解説をしていただいた。Bluetooth、ZigBee、LPWS、MQTTなどの無線方式について門外漢の私などにもわかりやすく説明いただいた。IoTの進化に伴って、省電力化、ノード数増への対応、通信品質の多様化など新たな課題が生じているとのことであった。

会場からは、活発な質問やインフラ整備でのIoTの活用事例の紹介など意見交換があった。

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail: hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

大分

大分県支部 CPD報告

研修委員長 ^{うえき} **植木** ^{かずひろ} **和宏**
(建設、総合技術監理・大分)



大分県支部の令和6年度第1回CPD研修会(通算54回)は、予定通り6月8日(土)に、大分県教育会館大ホールとWeb講習会を併用し、大分県技術士会主催、大分県測量設計コンサルタンツ協会協力、土木施工管理技士会後援で開催されました。

講演1：「重要文化的景観という価値観」(足立高行先生)では、文化的景観とは何か?文化の重層性とは何か?対象が変化するとはどういうことか?の疑問について、個人の視点や立場の違い等から考察を展開していき、景観保全関連法規の解説を交えながら、小鹿田焼の里、田染荘小崎の農村景観をはじめとする大分県内のいくつかの事例について解説いただきました。

講演2：「共Do社会到来 さらば土木村」(片山英資先生)では、インフラの老朽化による維持管理の重要性の高まりの一方で、少子高齢化による人財不

足、維持管理投資不足が足を引っ張っている現状を踏まえ、土木業界の変革すべき方向について、自身の体験も交えながら解説いただきました。

講演3：「土木デザイナー大分事例編」(増山晃太先生)では、先駆的な仕組みである九州地方整備局の「景観形成管理システム」による、ななせダム等の事例について説明いただくとともに、柳ヶ浦駅の駅周辺整備の専門家間の共同事例を説明いただき、新たな価値や土木の可能性について解説いただきました。

講演4：「地域の水道を次世代につなぐために」(本田善之先生)では、日本の水道の歴史について解説いただくとともに、老朽化・人員不足・財源の不足といった現状の課題を上げていただきました。後半では、所属されている別府市の水道の歴史と現状について解説いただきました。

講演5：「日本の温泉、大分の温泉—温泉の分類と成因—」(大上和敏先生)では、温泉の定義や分類について温泉法の定義を説明いただいた上で、日本の温泉と、その中でも大分県の温泉について、いくつかの温泉の事例を交えながら、起源や特徴について解説いただきました。

第2回は、9月7日開催予定です。

所属：株式会社レックス九州
(E-mail: k.ueki@re-cs.co.jp)

技術士全国大会

IPEJ ANNUAL CONFERENCE

第51回

熊本
九州沖縄

KUMAMOTO
CASTLE



ASO

火の国

-森の都-
熊本市

水の国

SUZENJI

大会テーマ ▶▶ かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ
集え～火の国・水の国～

会期

2025
10/25_土-10/28_火

大会構成

DAY1

■関連行事 ■ウェルカムパーティ

DAY2

■第1～第4分科会
■大会式典 ■分科会報告 ■記念講演
■交流パーティ ■パートナーズツアー

DAY3/4

テクニカルツアー

A 日帰り / 一泊二日 B

会場

熊本城ホール

〒860-0805
熊本市中央区桜町3番40号

<https://www.kumamoto-jo-hall.jp>

ウェブサイト
QRコード



公益社団法人 日本技術士会
The Institution of Professional Engineers, Japan

主催：公益社団法人 日本技術士会
事務局：公益社団法人 日本技術士会九州本部 第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）実行委員会
後援（予定）：文部科学省 ほか

開催プログラム

PROGRAM

10月25日 (土)	関連行事	委員会・部会による連絡会議・専門部会	熊本城ホール3F 会議室他
		ウェルカムパーティ	熊本城ホール3F
10月26日 (日)	第1分科会	防災 ー連携のチカラー 「経験を活かす・備える」	熊本城ホール3F 会議室
	第2分科会	青年 ーミライのチカラー 「ミライを支える技術者」	
	第3分科会	地域 ー高まるチカラー 「ハイテク産業の集積と地域の未来」	
	第4分科会	人材 ーはばたくチカラー 「人口減少社会における人材育成」	
		大会式典	熊本城ホール2F シビックホール
		分科会報告	
	記念講演	九州大学名誉教授・熊本大学客員教授ー松田泰治氏ー 『2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～』	
	交流パーティ	熊本城ホール3F	
	パートナーズツアー	山鹿灯籠民芸館・八千代座ほか	県北コース
10月27日 (月)	テクニカルツアー A	益城町・南阿蘇村・熊本地震震災ミュージアムほか	日帰りコース
10月27日(月) 10月28日(火)	テクニカルツアー B	人吉・球磨 2020年九州豪雨災害遺構・人吉温泉ほか	1泊2日コース

※プログラム及びツアーの内容は都合により変更する可能性があります。

記念講演

CEREMONY

▶▶ 2016年熊本地震の教訓に学ぶ ～更なる創造的復興に向けて～

2016年熊本地震から得た教訓を振り返り、地域防災力向上に繋がるとともに、新たな社会経済動向を活かした更なる創造的復興に向けて、その課題や展望を探ります。

専門分野：地震工学・都市防災・リスクマネジメント

九州大学名誉教授・熊本大学客員教授
TALJIMAZDA 松田 泰治 氏



お問い合わせ

CONTACT

公益社団法人 日本技術士会九州本部 事務局 / 第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)実行委員会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号 博多石川ビル 6階D2号室
TEL 092-432-4441 FAX 092-432-4443
EMAIL pekyushu@nifty.com WEBSITE <https://www.pekyushu.com>





九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内



- 技術士試験に合格したが……
- 技術士(補)として登録したが……
- 日本技術士会の会員になったが……
- 職場外活動を始めようと思うが……

「何から、どのようにして
参加していけば良いのか分からない」

技術士
仲間を
作ろう!

といった方へのご案内です
↓こちらから!

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！

合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。あなたも一緒に活動してみませんか？

活動の三本柱

研鑽活動	普及活動	交流活動
<ul style="list-style-type: none">• CPD• 見学会• 夏休み自由研究• 公開講演会• 研鑽会 など	<ul style="list-style-type: none">• 技術士制度説明講義• JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)• 女性技術者・女子学生懇談会 など	<ul style="list-style-type: none">• 合格祝賀会• 納涼会• 忘年会• ゴルフ大会 など

応募の詳細は
↓こちらから!

情報提供（イベント告知、広報活動等）

- Facebookページ
<https://www.facebook.com/YECofKyusyu>
- 九州本部の広報誌「技術士だより・九州」でも活動内容を紹介しています



応募フォーム(QRコード)

URL:<https://bit.ly/3fxXsnv>

問い合わせ先: kyusyu.seinen.pe@gmail.com (担当: 大川)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和6年5月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
大分 正会員	佐藤 繁博	機械	株式会社江藤製作所
鹿児島 正会員	岡田 直士	電気電子	株式会社九電工 鹿児島支店 電気技術部
大分 正会員	坂本 祐輔	電気電子	坂本祐輔技術士事務所
福岡 正会員	藤井 順二	電気電子	安川オートメーション・ド ライブ株式会社 経営企画部
福岡 正会員	池田 道弘	化学	池田技術士・労働安全コンサル タナント事務所
福岡 正会員	荒木 郷士	建設	日本地研株式会社 山口支店
福岡 正会員	池邊 浩司	建設	株式会社東光コンサルタンツ 九州支店 技術第一部
大分 正会員	大澤 直彦	建設	精巧エンジニアリング株式会社
福岡 正会員	高松 一馬	建設	株式会社オリエンタルコンサル タンツ 九州支社構造部
大分 正会員	稗田 吉伴	建設	松本技術コンサルタンツ株式 会社 設計部
福岡 正会員	湯澤 樹	建設	日本工営株式会社 福岡支店 国土保全部
福岡 正会員	松岡 賢	上下水道	福岡市水道局保全部
福岡 正会員	弥永 企史	衛生工学	株式会社九電工本社 空調管設計部
鹿児島 正会員	玉泉 利幸	農業	株式会社サタコンサルタンツ 総合技術監理 鹿児島本社 管理本部
佐賀 正会員	田中 義隆	農業	日本工営株式会社 防衛基盤整 備事業部 沖縄プロジェクト部
鹿児島 正会員	吉富 久人	農業	鹿児島土木設計株式会社 業務部
佐賀 正会員	蛭子 雄太	森林	朝日テクノ株式会社 技術部
福岡 準会員	秦 尚史	建設	粕屋町役場
鹿児島 準会員	宮越真樹子	建設	株式会社アイ・デベロップ・ コンサルタンツ 技術管理部
福岡 準会員	宮嶋 佳祐	建設	株式会社熊谷組九州支店 管理部
福岡 準会員	森田 隼仁	建設	大牟田市役所 都市整備部

〈令和6年6月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	藤井 順二	電気電子	安川オートメーション・ド ライブ株式会社 経営企画部
福岡 正会員	上田 哲生	建設	株式会社オオバ九州支店 総合技術監理 まちづくり部
鹿児島 正会員	大山 綱治	建設	株式会社アジア技術コンサル タンツ 技術部
福岡 正会員	加藤 暁之	建設	日本工営株式会社 福岡支店 国土保全部
福岡 正会員	川添 有紗	建設	日本工営都市空間株式会社 九州支店 技術部
福岡 正会員	佐野 泰志	建設	日本工営株式会社 国土保全 事業部砂防部
福岡 正会員	日高 雄太	建設	日本工営都市空間株式会社 九州支店技術部
沖縄 正会員	前田 亘輝	建設	日本工営都市空間株式会社 沖縄支店 技術部

熊本 正会員	松川 浩一	建設	株式会社白浜測量設計 技術部 応用理学
福岡 正会員	森 岳大	建設	日本工営都市空間株式会社 環境 九州支店 技術部
沖縄 正会員	小橋川正樹	上下水道	南部水道企業団
福岡 正会員	坂井 仁	上下水道	佐賀市役所 農林水産部 建設
福岡 正会員	槇山 達朗	上下水道	福岡市住宅供給高公社 機械
鹿児島 正会員	玉泉 利幸	農業	株式会社サタコンサルタンツ 総合技術監理 鹿児島本社 管理本部
沖縄 準会員	吉田 純	建設	川田建設株式会社 九州支店 企画営業部

〈令和6年7月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	真殿 耕司	電気電子	東芝インフラシステムズ株式会社 総合技術監理 九州支社
鹿児島 正会員	大園 親史	建設	株式会社南日本技術コンサル タンツ 技術部
福岡 正会員	服部 吉朗	農業	日本工営株式会社 福岡支店 流域水管理部
福岡 正会員	一川 雄一	情報工学	ESRIジャパン株式会社 総合技術監理 コンサルティングサービ スグループ
鹿児島 正会員	竹中 康進	環境	環境省 屋久島自然保護官事 務所
福岡 準会員	福永光太郎	建設	日本工営都市空間株式会社 九州支店 技術部
大分 準会員	三嶋 慎平	建設	株式会社コテガワ 技術部

九州本部の会員数 (2024年3月末)

県別	会員種別		
	正会員	準会員	合計
福岡・北九州	668	90	758
佐賀	63	8	71
長崎	114	21	135
熊本	115	25	140
大分	137	14	151
宮崎	79	18	97
鹿児島	105	27	132
沖縄	91	20	111
計	1,372	223	1,595

注) 九州本部正会員・準会員は、公益社団法人 日本技術士会の会員

協 賛 団 体 会 員

- | | | |
|--|--|---|
| <p>.....[福 岡].....</p> <p>(株)エム・ケー・コンサルタント
 (株)カミナガ
 (株)建設環境研究所九州支社
 (株)建設技術研究所九州支社
 (株)久栄総合コンサルタント
 産業開発コンサルタント(株)
 (株)サンコンサル
 ジーアンドエスエンジニアリング株式会社
 第一総合技術(株)
 第一復建(株)
 大成ジオテック(株)
 大和コンサル(株)
 (株)高崎総合コンサルタント
 (株)テクノ
 西鉄シー・イー・コンサルタント(株)
 西日本技術開発(株)
 西日本コントラクト(株)
 (株)西日本測量設計
 日鉄鉦コンサルタント(株)九州本社
 日本工営(株)福岡支店
 日本地研(株)
 富洋設計(株)九州支社
 平和測量設計(株)
 (株)ヤマウ
 (株)唯設計事務所</p> | <p>.....[北九州].....</p> <p>(株)永大開発コンサルタント
 (株)松尾設計</p> <p>.....[佐 賀].....</p> <p>朝日テクノ株式会社
 (株)エスジー技術コンサルタント
 九州技術開発(株)
 (株)九州構造設計
 (株)コスモエンジニアリング
 新栄地研(株)
 (株)親和コンサルタント
 精工C&C(株)
 (株)トップコンサルタント
 西日本総合コンサルタント(株)
 日本建設技術(株)
 シマウチエンジニアリング(株)</p> <p>.....[長 崎].....</p> <p>扇精光コンサルタンツ(株)
 (株)実光測量設計
 大栄開発(株)
 太洋技研(株)</p> <p>.....[熊 本].....</p> <p>旭測量設計(株)
 (株)ARIAKE
 (株)九州開発エンジニアリング
 (株)熊本建設コンサルタント
 (株)建設サポートセンター
 (株)興和測量設計
 (株)ヒライ・コンサルタント
 (株)水野建設コンサルタント</p> | <p>.....[大 分].....</p> <p>九建設(株)
 協同エンジニアリング(株)
 ダイエーコンサルタント(株)
 東洋技術(株)
 東洋測量設計(株)
 西日本コンサルタント(株)
 (株)日建コンサルタント
 日進コンサルタント(株)
 (株)富士設計
 松本技術コンサルタント(株)</p> <p>.....[宮 崎].....</p> <p>(株)アップス
 九州工営(株)
 (株)ケイディエム
 (株)国土開発コンサルタント
 (株)白浜測量設計
 南興測量設計(株)
 (株)西田技術開発コンサルタント
 (株)東九州コンサルタント
 (株)都城技建コンサルタント</p> <p>.....[鹿児島].....</p> <p>(株)久永コンサルタント
 (株)南日本技術コンサルタンツ
 (株)アジア技術コンサルタンツ
 大福コンサルタント(株)</p> |
|--|--|---|

次 回 の 予 告
 (第142号 令和7年1月)

- 2024年度 九州本部第2回CPD
- 2024年度 九州本部第3回CPD

編 集 後 記

今年の夏も記録的な暑さとなり、連日のように熱中症警戒アラートが発表されました。また、8月には日向灘を震源とする地震に伴い、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が初めて発表され、8月末の台風10号の襲来とともに、地震や津波への警戒を再認識させられました。日常となりつつある猛暑、予報等である程度予測が可能な豪雨や台風、予測の難しい地震など、様々な災害等に対して、「備え」の重要性を感じられた方も多いのではないのでしょうか。

今号では、来年10月に熊本城ホールで開催予定の技術士全国大会の案内を掲載しています。九州での開催は、実に10年振りとなります。開催に向けての準備がこれから本格化してきますが、引き続き、技術士会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
 (松田)

編 集 : 広 報 委 員

- | | |
|---------------------------------------|-------------|
| 【福 岡】 久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
原田 正則、松田 敦 | 【佐 賀】 合志 勉 |
| 【北九州】 宮崎 照美 | 【大 分】 竹内 一博 |
| 【長 崎】 清水 正明 | 【宮 崎】 満留 康裕 |
| 【熊 本】 沼地 英二 | 【鹿児島】 高畦 博 |

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
 (博多石川ビル6階D2号室)

九州本部： ☎(092)432-4441
 FAX(092)432-4443
 E-mail:pekyushu@nifty.com

九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>

印 刷：株式会社チューエツ